

令和元年度 第4回伊勢市子ども・子育て会議 議事録

- 日 時 令和2年1月23日(木) 午後2時00分～午後4時30分
- 場 所 伊勢市役所本庁舎東館 4-3会議室
- 出席委員 深草、花田、田口、濱口、田垣、尾関、伊寿、秋山、森、中村、杉山、道清、北川、柴原、藤田、近、鳥堂
- 事務局 健康福祉部
- ・次長 大井戸、参事 鈴木
 - ・こども課 課長 堀川、副参事 谷、保育係長 濱地、保育施設管理係長 須川、こども育成係長 福田、井坂
 - ・健康課 課長 浦田、母子保健係長 北口
 - ・生活支援課 課長 山崎 生活支援係長 川上
- 教育委員会事務局
- ・教育総務課 副参事 前村、西野
 - ・学校教育課 課長 西岡、指導係主幹 村井
 - ・社会教育課 課長 山口、課長補佐 阿部
- 同席者 株式会社 ぎょうせい 臼井、加藤
- 議 題
- (1) 第2期伊勢市子ども・子育て支援事業計画
パブリックコメントの実施結果について
 - (2) 第2期伊勢市子ども・子育て支援事業計画
最終案について
 - (3) 第2期伊勢市子ども・子育て支援事業計画
答申
 - (4) (特定)教育・保育施設の利用定員・確保策について
 - (5) その他

- ・事務局より開会挨拶、委員・事務局紹介、資料確認

【事務局より】

議題（１）について説明（資料１－３）

（「●」は委員意見、「→」は事務局回答を表す）

- 保護者は公立保育所でなくなることへの不安があるので、移管しても前と変わらないと納得できるような手立てがあればいい。
- 私立へ移管したことによって、前以上に良くなったと不安を解消できるよう努力していきたい。
- 会議所等の発信とか会社等からの発信とかも利用して、民と官が一緒になって両方から保護者の不安を解消していかないといけない。
- 親が子どもを真ん中に置いて先生と親と地域とみんなで子どもを育てようとしなないといけない。お母さんたちの方も意識改革して、忙しいから無理ですとかではなく、一緒になって育てましょうという気持ちにしていくことが必要。
- パブリックコメントの「心配で心配で、どうか子どもたちのことを考えて」と、その通りだと思う。市としてもきちんとこのことは押さえつつ、安心していただけるよう得策を練ることが大切。

【事務局より】

議題（２）について説明（資料１－１、１－２）

- 多胎児の支援は、伊勢市は充実していると思う。
- 子育てにおいても男性の参画やLGBTの問題などが大きく関わってくると思う。これからは、ダイバーシティの観点から見ていくことも、必要になるのではないかと。

【事務局より】

議題（３）について

- ・会長より副市長へ第２期子ども・子育て支援事業計画策定の答申を行う

【事務局より】

議題（４）について説明（資料２、３－１～３－３）

- 入所不可の57人というのはほかのところに入りたいということか。
→入所できる人数より申し込みが多く入所できない人数。入所決定ができなかったこの57名は、一旦一次募集では不可という決定をさせてもらうが、空きがある施設を案内し、入所を希望される場合は、二次募集の調整の中で一緒に決定させてもらう。
- 希望まで入れてしまうとどうしても待機が出てしまう。そういう方は仕事を諦めるしかないのか。
→入所の選考の中で基準で点数をつけて選んでいくが、就職活動等や現在働いてみえない方など点数が低い方が多くいる。そういった方には、一時保育などを利用しながら活動していただくことも可能なので、就職が決まった段階でまた保育所の入所を検討していただき、待ちますという方には空きが出てきたら入っていただくという案内をしています。

議題（5）「その他」での意見

- 将来の伊勢市を担っていく子どもの基本をつくる会議なので、この子育て会議は年3回はやってほしい。
→年度の途中の実績報告では、決算レベルになっていない面もあり、開催の見直しも必要であり、イメージとしては年3回をと考えている。また、年度の途中で利用定員の変更を諮るなどの案件もあるため、臨機応変に会議の開催は考えている。
- 学童保育についてはその需要と供給、非常に需要が大きいため、民間でやっているところが非常に多くなっている。それに対する補助という部分をもう少し考えてほしい。
- 2号3号の決定を、今年から第1希望から第6希望までという新しい制度を入れた。その結果・効果はどうだったのか。
→書類選考に関しては、例年と同じ1月末決定になっており、選考の方法については、保育の必要性の利用点数の高い順に入所を決定していくという方法に変更した。今年度は手動で決定をしたが、今後については事業所のほうでAI入所の実証実験をしてもらい、その同じデータでAIで入所選考をした結果で来年度導入に向けての検討をしていきたい。
- 前回子どもの権利の話で、歯の状況虫歯の状況を見るとその家庭の状況や子どもの様子がわかるという話があった。小学校でフッ化物洗口を毎朝させているような件もあり、保育園や幼稚園でしているところは、小学校でも引き続きしていきやすいと思うが。口腔内をフッ化物で洗口することによって歯の質を強くする。幼稚園児や小学生の歯が

できあがってくるときにするのが一番効果的。

- 妊婦歯科検診は伊勢市では平成12年から始まっている事業だが、平成30年度の実施状況を見ると、29市町中の約半分の15しかしていない。伊勢市では20年前からそういったことに理解してやってもらっていてありがたい。